

川辺産業株式会社

平成
25
年度

事業計画名 大幅な工程短縮と高水準保証体制構築による自動車部品の受注拡大

DATA

代表者名 代表取締役 鹿討 康弘 設立 1974年4月 資本金 3,400万円 従業員数 18名
 実施場所 〒025-0015 岩手県花巻市東十二丁目17-38-4 プレスステーション TEL.0198-23-6464 FAX.0198-23-5799 E-mail. info@kawabesangyo.co.jp
 事業内容 精密プレス部品加工、プレス金型設計、製作
 U R L http://www.kawabesangyo.co.jp/index.html

高精度な測定により高いレベルの保証体制を構築し、受注拡大を目指す

大型部品の高精度な測定をかなえる画像測定器を新たに導入。顧客からの信頼を勝ち得る高品質な製品製造を短納期で実現することにより、新規受注の拡大を図る。

高精度な測定に裏打ちされた、高水準保証体制の構築を目指す

当社は1974年の創業以来、金型設計製作から精密プレス加工、完成品の組み立てまでさまざまな金属部品製造を手がけてきた。これまでは、カメラやコンピュータなどデジタル機器に使われる民生用部品が主力であったが、この10年ほどは自動車関連部品の受注も増えている。

自動車産業をはじめ各業界の競争は日々激化し、当社においても競争を余儀なくされているなか、製造工程の効率化においてネックとなっていたのが、加工途中や最終検品の際に行う測定工程に関わる課題であった。

当社が従来保有している工具顕微鏡は、測定品を乗せるガラステーブルが180mm×150mmであり、それ以上の大きさの製品の高精度な測定が難しい状況にあった。測定誤差は顧客との信頼関係にも影響し、測定にかかる時間が生産性のロスにもつながっていたことから、大型の部品にも対応できる画像測定器を新規に導入することとした。



精密プレス加工から組み立てまで、幅広い金属加工を手がける。

大型部品に対応する画像測定器を導入

当社の工具顕微鏡は測定台が小さいことから、①測定できる製品の大きさ(測定ワーク)が限られている②測定時間のロスが多い③測定誤差が生じる④顧客の品質レベルアップ要求への対応が難しい、という課題を抱えていた。当社では複数の部品を組み合わせたセット受注が多いため、ベースとなる大型部品の品質保証が確実にできない現状では、今後の受注増加も見込めない状況であった。

これらの解決のため、400mm×200mmのガラステーブルを備えた、大型の画像測定器を新たに導入す

大型部品の高精度な測定を実現

本補助事業で導入した画像測定器は、測定ワークが大きく、大型部品でも分割したり、置き換えすることなく測定ができる。画像を26~180倍に拡大してモニターに映し出せるため、より細部まで高精度な測定が可能となり、顧客の求める品質保証に高いレベルで応えることができるようになった。これまで大型部品は、プレスステーションから本社に移動し測定を行っていたが、プレスステーション内に新測定器を設置したため移動時間が必要なくなり、納期の短縮にもつながった。

測定にあたる従業員も、これまでは顕微鏡を覗き込んで測定していたが、モニターを見ながらの測定になったことで負担が軽減。また測定データを記憶する機能を持つため、測定基準を複数回との必要がなくなり、測定時間の短縮や人手による測定誤差の低減にも

高精度な測定による確かな保証体制を新規受注につなげていく

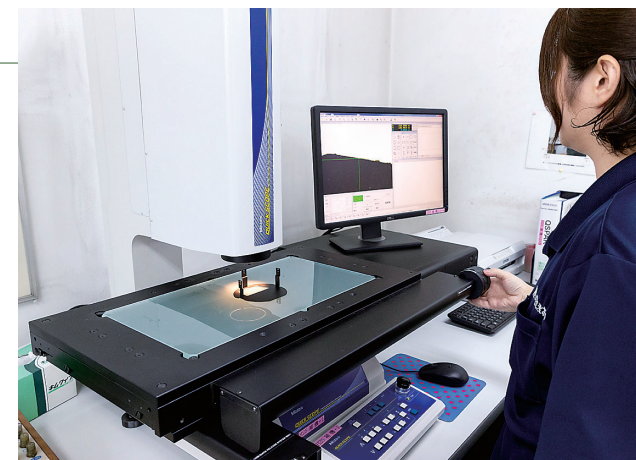
他社との競争が激しくなるなか、「正確に測る」ことが受注の大前提となる。また、高い精度で測定を行い、測定誤差の少ない製品を納品することで得られる顧客からの信頼が、次の受注につながっていくものと思われる。新測定器の導入で得られた、精度、納期、コスト面での当社の優位性を広くアピールし、他社との差別化を図りながら、さらなる受注拡大につなげていきたい。

導入当初は、主に自動車部品への活用を目的としていたが、半導体関連部品や液晶部品など、さまざまな部品の測定にこの測定器を使用している。現在、新規



400mm×200mmのガラステーブルを備えた画像測定器。大型部品も効率よく、高精度で測定できる。

ることとした。同時に、測定方法の標準化も進め、効率的な測定体制の強化にも取り組んだ。



モニターを見ながら測定できるので、作業にあたる従業員の負担も軽減。効率化により残業時間の短縮も図られた。

つながった。これらの改善により、測定時間が3割短縮、2割の売り上げアップという成果を得ることができた。

「確かな品質保証体制を武器に、産業用ロボット分野の開拓を目指したい」と話す、本社及びプレスステーション工場長の高橋一義さん。



分野の開拓を目指し、ロボット部品のひとつであるエンコーダーの受注に向け試作を重ねているが、量産に至った際には、この測定器も活躍してくれるものと期待している。